



第166号
発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会長
編集人 会報編集委員長
印刷所 須坂新聞社

同好会活性化のために

同好会副会長 浅岡 修一

本年度の同好会が発足し、十五同好会のもとに二百八十人の会員が参加して、活動が始まっている。夏休み中には、十一の同好会で夏期講習会・講演会などが開かれた。本会の同好会は、本会の目的を達成するための「会員の

職能の向上に関する事業」の中で、大きな位置を占めるものである。また、研究委員会の活動とともに、本会を支える両輪とさえ言われてきた。過去の記録を見ると、例えば哲学同好会では、高坂正顕先生等五人の講師を迎えて四十

まず、研修に対する自己認識を強くもつことである。研修し自己を高めようとする意欲をもつことである。そして、研修の場の一つを同好会に求め、そこに集った会員相互で高め合うことである。自分ひとりで究める研究ももちろん大切だが、同好会での研修の意義はそこにあると思う。次に、会員になつたら、つとめて会に参加することである。参加し、その中で仲間から吸収できる何物かを得ることである。勤務校以外の先輩に学ぶことのできる貴重な場でもある。

いづれにしても、自分のできるいちばん身近なことからまず取り組んでみるのが大切だと思う。(常盤中)

CAI教育推進校を視察して

宮川 高思

相模原市では、二十一世紀を生きる子ども達に、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる能力を身につけることをねらいに、昭和六十一年度よりフロンティアスクール推進事業を展開してきた。市内五十三小学校・二十七中学校に小学校四十戸、中学校四十七台を順次導入し、一教室を改造しネットワークを組んでCAI学習に取り組んでいる。大沢小学校はフロンティアスクール推進校、教

育指導方法開発研究校の指定を受け、コンピューターを活用した新しい学習指導をめざし研究を進めている。大沢小学校では主に国語科学習の指導を研究しており、算数・理科などの他の教科は、市内他の小学校が進めている。そこで研究・開発されたソフトは、教育研究所・学習情報センターに登録し、市内の学校でいつでも使用ができるように管理されている。自作の教育用ソフトが六年度末

現在で小学校用約三百本、中学校用約二百本ある。ソフトの開発は、夏休みに入ってから集中的に行い、連学年で一つのソフト製作をめざしている。各学年の学習場面においてフローチャートを作り、子ども達を引きつける絵を考え、飽きさせないようにする工夫が非常に大変である。場面をコマ・コマ考え、コーディング用紙に記入していく作業で、それを一〜二週間かかる。それを業者に委託し、プログラムにできあがったソフトを動かし確認し、一時間の授業で使う。

コンピュータの購入費・維持費・ソフト開発費は、市が一括して支払う。ただ、コンピューターの世代交代が激しい中、新しい物をと考えるが、市全体のコンピューター数と予算を考えると、新しいものに変わっていかないのである。

コンピュータが家庭に進入し、東信地方でマルチメディアセンターがオープンする時代に、小学校の時からコンピューターに接していくことは重要なことと思われる。子どもが自由にさわられるコンピューターが小学校に教台はほしいと感じた。(旭ヶ丘小)

教育会だより

- 7・21 教育七団体結成会 於教育会館
7・31 資料施設委員会が新会館への移転作業開始
8・30 第五回常任委員会 教育七団体代表者会 於教育会館
8・31 教育研究会中間連絡会 於教育会館
9・6 教育七団体代表者 市内四高等学校へ陳情
9・11 教育七団体代表者 県・県教委へ陳情
9・11 新会館への移転について各団体の代表者会
9・14 第6回代議員会、信教各種研究調査編集委員会中間報告会 (会館 町田 徳)

須高の山と川⑧ 宇原川



十六年八月台風による集中豪雨で、土石流となり尊い十名の人命を奪う大災害をもたらした。それから十四年、全国各地で災害が発生すると生徒会が中心となって、募金援助活動の輪が広がっていく。「宇原川災害の時、大勢の人たちに援助してもらったのだから。」が、合い言葉だ。活動を起こしている生徒たちは実際の災害を知らない。しかし、大災害の教訓を風化させたくないという切なる思いが活動に込められている。平成五年より、本校の生徒たちは東地区全体がきれいな環境に戻ることを願い、五月に全校VS活動を行っている。宇原川沿岸の大笹街道をゴミ・空き缶を拾いながらボランティア活動を行っている生徒たちの顔は、清流のようにさわやかである。今、宇原川の沢すじは、萩・尾花・葛をはじめ秋の野草があふれんばかりに咲いている。自然豊かな川である。(東中 業田凌千)

四阿山から流れ落ちる水を集めて仁礼地区を流れる宇原川は、清流である。かつて、地域の子どもたちは川でかじかをとって、蛭を追った。しかし、その清流も昭和五

# 「秋山のよき節」の里を訪ねて

小林 正佳

♪おらあうちのおうちは、おらあうちのおうちは、嫁をとることのヨサ忘れたか。忘れはせぬ、忘れはせぬ、稲の出穂見てのヨサ嫁をとる♪

これは有名な秋山の民謡「秋山のよき節」の一節である。嫁をとってほしいという若者の切ない訴えに対して、「稲の出穂見てから、嫁をとる」という親の苦渋を唄ったこの民謡に心を引かれたのは、大学生の頃だったような気がする。

## 夏期研修で

## 学んだこと

前々任校で、六年生を担任したとき、二年続きで米作りをしながら、「米」を視点を歴史学習を展開した。その時江戸時代の「飢饉」を教えるネタとして、この「秋山のよき節」を扱った。「稲の出穂みて」嫁をとらなければならぬ農民の生活を、秋山地方における天明の飢饉と結びつけて学習した。だが、私は現地に足を運んだことはなかった。

八月六日(日)、午前七時、須坂駅に集合し、乗用車二台に分乗して出発した。私の車には、講師としてお願いした青木廣安先生(高山公民館長・前高山中学校長)がご一緒してくださった。道すがらの地理、歴史を懇切丁寧に説明してくださり、北信の地理に疎い私には、非常に楽しい一時だった。

車は、やがて新潟県の津南町から、溪谷をぬって秋山郷に向かう。以前は、秋山の小学校に赴任する先生方は、津南町で一泊し、歩いて学校に向かわれたという。

秋山小学校は、深い摺り鉢状になった地形の底にある。ちょうど秋山常民大学の講座が一区切りついたらしく、市川健夫先生を先頭に学生たちが、次々に出てきた。私たちが現場へと急いだ。

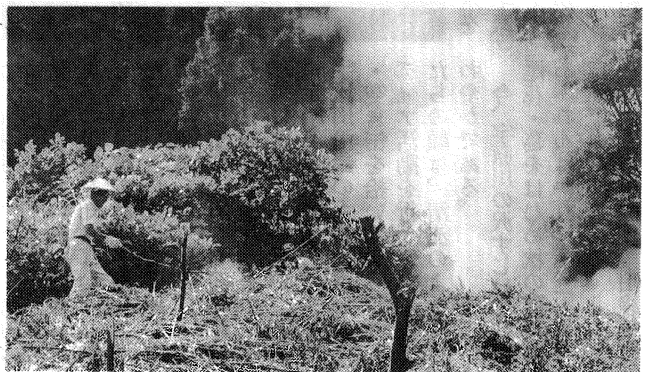
先生は、秋山で行なわれていた焼畑耕作の伝統を絶やさないために毎年行なっている。焼畑の現場は、十アール程あるうか、山裾の急斜面の木々がすでに伐採されていた。火は上部から付けた。下部は

町から、溪谷をぬって秋山郷に向かう。以前は、秋山の小学校に赴任する先生方は、津南町で一泊し、歩いて学校に向かわれたという。

秋山小学校は、深い摺り鉢状になった地形の底にある。ちょうど秋山常民大学の講座が一区切りついたらしく、市川健夫先生を先頭に学生たちが、次々に出てきた。私たちが現場へと急いだ。

先生は、秋山で行なわれていた焼畑耕作の伝統を絶やさないために毎年行なっている。焼畑の現場は、十アール程あるうか、山裾の急斜面の木々がすでに伐採されていた。火は上部から付けた。下部は

(日野小)



私が敬愛する作家の一人である阿川弘之先生が木崎で講義をなされるという事を知り参加した。この講義で心に残った内容を列記したい。なお、先生の信念に従い旧仮名遣いで記す。

## 「志賀直哉の生活と芸術」から

木崎夏期大学に参加して

西原 秀明

「志賀直哉のエッセイで文」

「ハ」ヲ別トシテ一ツノ約束デハ無く、モット根本的ナモノダ。文ノ構造ガ文法ニ合ハ無イト云フ事ハ文ノ約束ヲ無視スル事デハ無く、頭脳ノ構造ヲ無視スル事ダ。邪道ダ。自分ハ文法ヲ少シモ知ラ無いガ、頭脳ノ構造ニハ忠実ニ書クオトスル。」

「中央公論社の中公新書に『理科系の作文技術』と云ふ本が有ります。そこで大変感

造ヲ無視スル事ダ。邪道ダ。自分ハ文法ヲ少シモ知ラ無いガ、頭脳ノ構造ニハ忠実ニ書クオトスル。」

「中央公論社の中公新書に『理科系の作文技術』と云ふ本が有ります。そこで大変感

銘を受けたのは「理科系の文章で事実の中に判断を混ぜない。事実と判断と云ふものは峻別せよ。」と云ふ所で、筆者は事実だけを枚挙して判断は読者に任せるべきだ。此れはアメリカの小学校の作文の教育で厳しく教へる所だ。云ふ事が書いて有るんです。此れは実は、理科系の作文技術と云ふだけでは無く、英国流の或ひは英米流の歴史を述べるに当たって、非常に守られてゐる、或ひは守られなければならないと思はれてゐるプリンスプルなんです。」

「私も文士は、講義つて

「一度お叱りを受けた。それは、もつと先生が壮年時代だったら『君は今後来ないで呉れたまへ。』と云はれたかも知れない。熱海の頃で、先生は、もう七十になつてましたけれど、私はちつとも売れない作家だつたんですけど、それでも何かで誉められた。誉められた短編が何かで、多

少しい気になつてたんぢやないかと思ふんですね。自分でいい気になつて積もりは無いんですけれども。何故いい気になつて積もりは無いかと云ふと、熱海の志賀家へ出かけてる時は、其の朝必ず神経性の下痢をするくらゐ緊張してたんですから、さう先生の前でワアツてな態度をする筈は無いですけれども、勘の鋭い人ですから、一寸いい気になつて云ふ事が癪にさわられたんだと思ふんですけど。『君、一寸来て。』他の客や奥様の居ない庭先に呼び出されて、云はれた事は「あのねえ、ポーカーフェイスって言葉が有るけどもね、付いても付かなくても、もう少し知

休憩時、先生にご署名を戴いた。「須坂に僕の本なんか有ったの。で、名前はどのう字を書くの。」

「優秀の秀に。」

「ああ、秀吉の秀ね。」

この時、これから優秀の秀と言うのはよそうと思つた。

(高甫小)

# 体育実技伝達講習会に参加して

柳沢 剛

七月十五日(土)に日野小学校体育館において、栗が丘小学校橋本先生、稲田先生、仁礼小学校宮坂先生による「体育実技伝達講習」が行われた。

まず、基本の運動としてリレーと無理のない速さでのかけ足、走り高跳びに關してのルール工夫や場の設定の工夫について紹介された。無理のない速さでのかけ足については、私も授業ではただ単に五分間走やマラソンを行うにとどまっていたが、今回紹介された折返しのコースを設定し、一定時間ごと笛を鳴らし、そのときに決められた範囲内を走って決められたポイントという方法は大変参考になった。これなら子どもたちも飽きることなく、楽しみながら運動を進めることができる

と感じた。更に、子どもの実態に応じて幾つかのコースや時間を設定すれば、個人差に応じた指導を行うことや記録向上への挑戦の場を与えることもできると感じ、早速実践してみたと思った。また、走り高跳びでは、自分の身長からめやすとなる高さを設定し、その高さに対してどのくらい跳べたか得点が決まり、その合計をグループで競うという方法も今後の指導に生かせると感じた。私も、ノモグラムを使って自分のめやすと

最後に、恥ずかしながら私も昨年度講師という立場での体育実技伝達講習に参加させていただいたが、ぜひ体育

## 初任研に参加して

藪原 栄樹

望月少年自然の家で行われた初任研の四日間は、私にとって充実した日々でした。

一日目の所長講話では、「凸凹の妖怪考」として、子どものおくにひそむ凸凹を見ぬく眼力をつける必要があるという気持ちを持たされる話を聞かせていただきました。

所長講話の後は、明日の登山の下見計画について指導を受けました。計画を立てるポイントとして、まず、安全に対する配慮、いざという時の対応

望月の仕方が大切であると教わりました。五年生の担任として、夏休み前に登山の下見にいらしたのですが、その時私は安全に対する意識が高まっていなかった事をはずかしく思いました。

二日目の登山は晴天の下、高山植物を観察しながら、前日の計画に従って行われました。高山植物の色はとも鮮やかで名前を覚えながら歩いて行くのは楽しく、子どもたちにも高山植物の名前を山で

## 本校の宝⑩ 校歌碑

高甫小学校

開校以来百二十一年の歴史をもつ本校の全児童二百六十六名は日々目にするものに、開校百周年記念事業で設置された昇降口前の校歌碑がある。

校歌を刻んだ黒みかげ石を

校歌を刻んだ黒みかげ石を



査員の小出聖水先生の手によるものである。礎石には、当時の児童が鮎川より拾った石に願いのことを記してうめ込まれているという。

歌碑は、校歌(勝承夫作詞・平井康三郎作曲)の一節「朝夕仰ぐ明德に

教えたら、きつと喜ぶだろうと考えると、なおさら楽しくなりました。

二日目の夜の交歓会では、酒の力で心がなごみ、多くの人と話をすることができました。その時のビールもおいしかったです。少年自然の家では水がとておいしかったです。今は水も商品として売られていますが、このような身近な環境が本来の純粋な状態を失い、汚染されている事にすっかり慣れてしまっていたのだなあと思いました。

三日目は、野外で座談会が行なわれました。教科の指導に対する悩みを聞いて頂き、具体的なアドバイスにより、二学期に実践してみようという気持ちになりました。学級経営については、どの学級でもそれぞれの悩みを持ちながら

見せるこの意気」と歌われ、地域の象徴となっている妙徳山と対峙している。ふるさと山として毎春「全校登山」を実施し自然体験と郷土理解・自立の英気を養っている。

なお、校歌碑の設置に併せて、学校活動に必要な樹木を地区住民から提供していただくなどして、校地内へPTA作業で百八十本の本の植え込みをしている。校歌碑の植栽はその一部と思われる。校歌碑建立の経過には、地域の教育を大切にす風土と学校に寄せる強い思いがこめられている。

今年も炎暑の中で児童と先

ら、がんばっている同年生の先生の話を聞きました。自分の学級のことを話していくうちに、うまくいかない場面に遭遇した時には、これはもうどうにもならないと思える様な事でも、他の人も同じような経験をし、なんとかわってきているのだと思うと気が楽になりました。

堅い事ばかり書いてきましたが、今回の研修では、食事はじめ、体育館でのバスケット、キャンプファイヤーの出し物の相談、練習、野外炊飯などはおおいに楽しむことができました。大勢の人と楽しみ、語り合い、同期の仲間がたくさんできたことが、この研修での最大の成果でした。この機会を与えて下さった事に感謝します。

(高山小)

# 火ばち談義



## アメリカの学校を見学して

山下 佐枝子

夏休みを利用して約一週間アメリカへの旅行をした。三年前に語学研修させていた時、ホームステイしたその家庭への里帰りとして、オレゴンとサンフランシスコに滞在した。

前回は研修生として大学に通ったが、今回はホストマザーの好意で、彼女の勤務する小学校を見学する機会に恵まれた。その学校では八月の間、学習の進みのゆっくりとした児童を集めて低学年、高学年、それぞれ一時間ずつ、音読と書き取りの個人指導を行っている。約二十名の児童に、ボランティアのヘルパーを含め、五名の先生方が指導にあたる。先生一人が四、五名の生徒のグループを、あるいは一人の生徒をそれぞれの学習の進み具合(宿題など)に合わせて教えていらした。

音読の指導をしながら、繰り返し繰り返し先生方がささやいておられた言葉から、入門期にフォニックスを徹底的に指導していることも知り、もっと勉強しなくてはと痛感

した。また、アメリカ人の子供たちでも、間違えながらも繰り返し書き取りの練習をしているのを見て、地味な練習も大切にしなくてはと思った。それぞれの授業の最後の五分間を、私の時間として頂いた。「AETみたい」と緊張しながら、日本の事や自分の学校の事などを話した。その後子供たちから、食物やお金に始まり、震災や宗教のことまで多くの質問がされた。時々うまく聞き取れなくて申し訳なかったけれど、子供たちは、本校の生徒がAETの先生と初めて出会ったときの笑顔と同じ笑顔で、私のごちゃごちゃな英語を聞いてくれた。

外国の文化について語るとき、私は日本との違いにしか目が向かず、似ているところや通じる部分には目を向けずにいたのではないかな、と最初の時初めて思った。人種のこと、家庭生活のこと、心に受ける傷やうれしさと感じる気持ちには何も違いはないのか、もしれないと、見学中だけで

なく、この旅行中ずっと、感じないではいられない出会いがとも多かった。  
英語学習の指導方法という

## 子どもの時間 大人の時間

北原 裕子

子どもに「お母さんの口ぐせってなあに。」と聞くと、「早く〇〇しなさい。」が一番多い。たぶん私も、学校生活の中でその言葉を連発しているのではないだろうか。私のクラスの女の子で何をするのにも最後という子がいる。絵を描くのも最後、計算

も最後、帰りの準備をするのも一番最後である。よく見ていると、できないわけではなくて、取りかかるとすぐにボケッとしてくるのだ。私は何とかこの子の取りかかりが早くなるように、帰りの準備の時間にはつきっきりで声をかけることにした。

「上を見ず、一つ一つ精一杯戦ってきます。」とキャブテン。「全国大会用のバレーなどありません。今まで練習してきた小布施のバレーができれば、かなりのところまでいくはずですよ。そう信じて行って参ります。」と自分。全国大会出発にあたり、早朝にもかかわらず見送りに来て下さった保護者の方々、先生方へのあいさつがこれでした。大会中は、本当にこの言葉通りで、私はひたすら選手との調子と、いかにリラックスさせるかだけを考えていました。「自分たちのバレーができなかった。」と悔いが残る

## 小布施男子バレー部に思う

顧問 岡本 健郎

ような事だけは選手たちに味わせたたくない。自分たちのバレーが十分発揮できて、それで負けたのなら結果はどうでもいいというのが私の本心でした。

唯一、決勝の特設コートに立ったとき、本当にここにいていいのかと思っただけでいいのかもしれないから。当たり前ですが、やけに納得してしまいました。

今に思えば不思議な縁で、素人の私がバレーボールに関わるようになってしまったの四年。なのになぜ勝てたのでしょうか。

もちろん、小布施はスポーツが盛んで、部の保護者の方々のバックアップにも敬服す

「早く着がえて。できた?」  
じゃ次は教科書入れて。」と世話をやいたが、本人はまったく気にとめない様子でいつものベイスで準備をし、さようならをしておわってしばらくたってから「先生、さようなら。」と笑顔で帰っていく。

「ねえ。〇子さんはいつも最後だね。」と言うと、「いいの。保育園のころもそうだったもん。」とかわいらしく言う。その言葉を聞いた時、私が一生けん命してきたことは何だったのかなと思った。時間までに着がえて、さようならをしなくてはいけないうのは、こちら側の都合で

あって、それを無理やり押しつけようとしていたのではないかと考えた。

授業の中でもたえず、「できた?おわった?」「早くしなさい。」とせかす毎日。子どもを私の望む枠の中にけん命にはめ込もうとしていたのかもしれない。

『ソウの時間ネズミの時間』という本を読んだことがある。体の大きさによって、時間の流れる速さが違うという。すると大人と子どもでも、流れる時間の速さは違ってくる。大人の時間の枠にはめ込もうとせず、長い目で見ていきたいと思います。(森上小)

るものがあります。しかし、いざとなると技術ではなく、やはり選手の性格が試合に顔を出します。

以前、スポ少の監督とプロックについて話をしていた時に、こう言われました。

「真面目な奴ほどスパイクを止める本数が多いですよ。だってそうでしょう、プロックに跳ばなきゃどうしようもないんだから。」当たり前ですが、やけに納得してしまいました。

運動会、文化祭を迎える、正にスポーツと文化の秋を感じさせます。

今回の会報は、特に夏休みを通して研修活動の報告を中心とした、内容豊かなものとして編集することができました。(担当 内藤・畑中)

## 編集後記

「早く着がえて。できた?」  
じゃ次は教科書入れて。」と世話をやいたが、本人はまったく気にとめない様子でいつものベイスで準備をし、さようならをしておわってしばらくたってから「先生、さようなら。」と笑顔で帰っていく。

「ねえ。〇子さんはいつも最後だね。」と言うと、「いいの。保育園のころもそうだったもん。」とかわいらしく言う。その言葉を聞いた時、私が一生けん命してきたことは何だったのかなと思った。時間までに着がえて、さようならをしなくてはいけないうのは、こちら側の都合で